

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はなみずき )

事業所番号	0672300431		
法人名	山形小木医科器械株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6		
自己評価作成日	平成21年11月5日	開設年月日	平成18年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの想いを職員が理解し、ご家族との信頼関係を築きながら、一緒に考え、その想いに添えるよう皆で取り組んでいる。一人ひとりがゆったり楽しく生活していただけるよう支援している。  
 ・健康で楽しく過ごして頂くために、体操や遊ビリテーションを取り入れ、笑顔を増やせるように日々アイデアを出し合っている。  
 ・協力医療機関と連携が取れており、緊急時には速やかな対応が出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成21年12月8日	評価結果決定日	平成22年1月13日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に提示しているが共有するまで至っていないかった。全体会議やユニット会議で理念の共有を目的に勉強会を行い、目標を設定するなどして、理念を意識し少しずつ実践されてきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の祭りや行事等に積極的に参加するよう心掛けている。日頃から近所の方と声を掛け合っており、花や野菜を頂いている。又、芋煮会など事業所での行事にも地域の方々に参加して頂けるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町の認知症サポーター養成講座に参加し、認知症の方を地域で支えるまちづくりの啓発に努めている。事業所の広報へ認知症や健康に関する情報を載せている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター長、地区区長、民生児童委員協議会長、家族代表が参加し定期的に開催している。メンバーは運営推進会議の意義や役割を理解し、積極的に意見をしてくれる。会議ではメンバーの意見を反映すべく取り組むように努力し、また、取組みの内容経過を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の取組みや実情は折に触れ伝えている。特に施設職員だけでは解決困難な事例に関しては、市町村の担当職員へも事情を説明し、一緒に関わったり相談にのってもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関に鍵をかけない取組みに力を入れているが、不穏で早朝や職員一人になる時間のみ家族との協議の上で玄関に鍵をかける場合がある。他の方法で対応出来ないかをカンファレンスで検討したり、地域にも協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	伝達講習や復命書などにより学ぶ機会をもっている。又、9月の全体会議にて勉強会を行った。虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。言葉遣いや不適切な介助に関しては発見したときや気がついた際に声を掛け、一緒に考えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいるときには説明していたが、現在は利用している方がいないため、学ぶ機会を設けていなかったが、9月に一度勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は予め家族に時間がかかる事を伝え、十分時間を取るようにしている。要所要所で確認する時間を取り、細かい疑問や不安に応えるようにしている。料金が変わったり、本人の状況が変化した際は個別に話し合いの場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は年2回(春・秋)家族懇談会の場を設けている。家族会は無いが、会の都度様々な意見を出して頂いている。懇談会で話し合った内容は、記録にまとめ全職員で確認し、翌月から反映させるための取り組みについて話あった。		
11		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年2回個別に職員と話し合う場を設けている。実際に取り入れられた意見も多い。また、管理者や施設長代理が折に触れ職員の意見を聴き、代表者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働きやすい職場作りを目指している。又、外部研修に参加しやすい環境を整えている。代表者が現場に来ることが少ない為、職員としては、個々の努力や勤務状況など実際にみてほしいという思いが強い。給与水準の整備に関しては取り組み中である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまでは施設外研修への参加に力を入れてきたが、今年から新たに意識向上委員会を立ち上げ、職員の立場から学びたい内容をメインに内部研修を取り組み始めたばかりである。新任職員の研修の整備については、取り組み中である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、同協会の交換実習に参加している。学んだことをユニット会議に持ち込みケアに活かせるよう検討している。又、独自に近隣グループホームと連携して体験交換実習を行ったり、行事などに参加しながら交流の場を深めサービスの質の向上に努めている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人に会って生活状況を把握するように努め本人の想いを受け止めながら、本人に受け入れられるような関係作りを心掛けている。又、ゆったりとした雰囲気作りに配慮し本人の話に傾聴し、じっくりと訴えを受け止める事で安心出来る信頼関係を築こうと努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受ける際は話しやすい雰囲気作りに努めている。本人・家族の思いや状況などを確認した上でどんなサービスが必要かを見極め、当事業所で出来ることを説明するようにしている。面会の際は家族等が不安な事求めている事がないか問いかけ家族等が話しやすい雰囲気作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける中で、本人の状況や本人家族の想いを受け止めながら必要なサービスを見極め、必要なサービスを紹介している。早急な対応が必要な相談者には、地域包括支援センターにつないたり、担当ケアマネと連携を図るなど柔軟な対応を心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な分野は継続できるように、一緒に行動する中で教えて頂きながら、出来ない部分には、手を貸し支え合って暮らして行けるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を支える為に、同じ想いで支援していることを伝える様になっている。又、面会時や電話などで相談しながら想いが切れないようにつとめている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室や病院を利用したり、自宅や地域に暮らす友人、親戚宅に遊びに行ったりして、継続的な交流が出来るよう支援している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気軽に話せる雰囲気、トラブルのない穏やかな時間を過ごせるように、利用者同士の関わり大事にしている。その時の気分や体調などによっては、関係に変化が生じる事もあるため注意深く見守り職員が間に入って調整役にはいる様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方には利用者と一緒に面会に行ったり、今まで利用していた事業所に遊びに行ったりしている。町で会った際は、声を掛け合っている。移り住む関係者へも、情報を詳しく伝え、安心して過ごせる環境作りを心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情、動作などで思いを汲み取るように努めている。意志疎通が困難な方に関しては、家族からの情報をもとに、行動や表情を見ながら汲み取るようにしている。不安を取り除き安心して過ごして行けるような支援を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの暮らし方を大切に、安心して暮らせるように御家族ご本人、関係者から聴き取るようにしている。入所してからも、折に触れ話を聴きケアに活かせるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握し理解するように努めている。有する能力を把握しているものの、その能力をもっと活かせるような場面作りを出来るように努力していきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの前に利用者や家族と個別に話し合いの場を設け、それぞれの意見を聴きながら介護計画に活かしている。情報変化時はその都度検討しているが、計画書に落とすまで至っておらず、今後の課題である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルで身体的状況及び日々の暮らしの様子を記載している記録の重要性を常に全員が認識し、勤務開始前の申し送りでは、申し送り表を利用して全員が情報を共有出来るように実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との接点を見だし、周辺住民への協力の働きかけをおこなっている。警察にも協力を依頼したり、運営推進会議などで意見交換の場を設けている。現在地区消防団との連携について準備を進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医になっている。出来るだけ今までのかかりつけ医を継続するようにしている。また、基本的には家族同行の受診となっている。家族対応の場合は、近況を伝えたり、受診時連絡表を活用し情報を共有するようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の非常勤で健康管理をおこなってもらっている。看護師の出勤日でない場合は、電話で相談している。また、看護師との連絡ノートを作り情報交換に活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている。家族とも、回復状況など情報交換しながら、退院に向けて、主治医との説明にも同席し、速やかな退院支援に結びついている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、家族、職員が連携を取り急変時に備えている。重度化した場合は安心してサービスが受けられるよう、随時家族と連絡を取り合い対応している。終末期のケアが必要になった際は、指針はあるものの勉強会を実施し、職員が最期を受け入れられるよう準備を行う必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、心肺蘇生法やAEDの講習を実施している。応急手当や初期対応の訓練は行っておらず、検討が必要である。全職員が統一したケアを行えるよう、マニュアルの整備も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、町の消防署と連携を取り、避難訓練を実施している。現在、地区の消防団との連携をどう図っていくか協議中。10月に話合いの場を設けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や尊厳の保持という部分で理解出来ない職員がおり、不適切な言葉使いや支援がある。ユニット会議で問題提起を行い、職員皆で目標を決めながら取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、一つひとつの行動や表情を見逃さずに想いや望みを読みとり、自身で決定出来るよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の暮らしを支援出来るよう心掛けている。一日の流れはあるが、利用者の想いを確認し、可能な限り支援し、実現出来る努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意向を見守っている。しかし、自己決定がしにくい利用者に対しては、職員と一緒に考えて季節や行事に合わせた支援を行っている。希望者には毛染めの化粧品を一緒に選び、染める支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、好きなもの、季節のもの、畑で収穫されたものを取り入れたり、食事が楽しくなるよう工夫している。また、買い出しや準備、後片付けなど利用者と職員が共同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量などは毎日把握しているが、職員が考えている献立のため、栄養バランスや塩分、カロリーなどについては学習が必要と思われる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。個別に一部介助を行っている方もいるが、徹底がされていないところもある。就寝前は、義歯洗浄薬で消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでの排泄を支援している。尿意のない利用者に関しても、時間を見計らって誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある方は下剤などで調整しがちになっている。もう少し飲食物の工夫や運動への働きかけをしなければならないと思う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望がある方には希望に沿った時間帯に入っている。入りたくない方へは無理強いはないが、タイミングを見計らって再度誘ったりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠のために、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。また、本人の体調を考慮しながら休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時などは全職員が確認するようにし、効果なども観察するように努め、状況を主治医に報告している。しかし、処方薬の効能や副作用などについて全職員が理解しているとは言い難い。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを探し、一緒に取り組んでいる。利用者の日課になっているものも多い。その都度、感謝の気持ちを伝えるようにしている。気分転換法も人それぞれ違うので個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、買い物に出掛けている。車椅子の方は、車椅子で散歩している。行きたい所への訪問も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と理解を得て、少額を手元に持っている方がいる。買い物などに出掛けた際、自分で好きな物を購入している。入所の際に本人が管理する金銭については話し合うが、中にはすぐ使ってしまう方もいるため、状況が変わった際は家族と再度相談するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族、大切な人との絆を大切に、出来る限り本人の希望に沿えるよう電話、手紙のやり取りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、壁に季節にあった装飾の工夫を行っている。トイレ、浴室等の清潔を保つよう、毎日の掃除を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子やソファを置き、休みたい時にゆっくりとくつろいでもらっている。利用者同士の交流は職員が必要以上に介入せず、見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が家族と一緒に居室作りを行っている。自宅で使っていた物を出来るだけ持ち込むようお願いしており、部屋がくつろげる場所になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや調理台として利用している台は、利用者が使いやすい高さになっている。身体機能に応じて、安全かつ安心した生活が送れるよう、使い心地が良い環境作りに努めている。		